

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	宮崎県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	西都市立妻南小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	3	3	3	2	3	1	19	26
児童数	102	83	105	104	77	89	2	562	

研究の概要

1. 研究主題

一人一人の子どもに確かな学力を定着させるためのきめ細かな指導の在り方  
～繰り返し学習でつける 読む力 書く力 計算する力～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

1～6年生・国語・算数  
・国語,算数で培う基礎的・基本的能力は他教科の学習での基礎となり,全体的な学力の向上が期待できるため,また,子どもの理解に差が出やすい教科であるため。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 基礎・基本の確実な定着を図る指導の工夫の在り方 仮説 (1) 教科指導において,基礎・基本の習熟を図るためのくり返し指導の工夫など,個に応じた指導を充実させれば児童に基礎・基本を確実に定着させることができるであろう。 (2) 地域や家庭との連携の仕方を工夫することにより,学校と一体となった学力向上の取り組みができれば,家庭の学力向上に対する意識が高まり,家庭学習が充実するであろう。</p> <p>研究内容・方法 ア 少人数・習熟度別指導の工夫・・・少人数指導加配教員を中心に少人数・習熟度別指導を中学年で研究する。また,その成果を保護者に随時説明して理解を得る。 イ 保護者の意識の把握の工夫・・・家庭での子どもの学習や保護者の関わり方の調査を行い,学力向上に対する家庭の意識付けと家庭学習の充実を図る。 ウ 指導過程の工夫・・・1単位時間の指導過程に復習の時間を設定し,学習内容の確実な定着を図る。 エ 家庭学習の一層の充実を図る連携の工夫・・・家庭学習について学級懇談会の協議題として設定する。また,家庭での読書の習慣づけのための取組みを行う。 オ 校時程の工夫・・・基礎・基本をくり返し練習しその習熟を図るための時間帯を設定し,その活用の在り方を検討する。 カ P T Aとの食に関する連携の工夫・・・学校保健委員会の事業と連携して家庭での好ましい食習慣形成を行うことにより学力向上をめざす。 キ 情報公開の工夫・・・学校ホームページを開設して取り組み状況を公開する。</p>
--------	--

## テーマ

読み 書き 計算を中心とした基礎学力の確実な定着を図る指導の工夫の在り方  
(研究で取り組み, 児童に付けたい力を明確にするために焦点化した。)

## 仮説

- (1) 教科指導において、「繰り返し指導」を取り入れるなど指導過程の工夫や音読・暗唱指導など指導方法の工夫をしたり, 少人数指導や教科担任制等効果的な指導体制の工夫をしたりすれば, 児童に学習内容の「基礎・基本」の確実な定着が図れるのではないか。
- (2) 漢字力テストや計算力テスト等諸テストで, 常に児童の実態を把握し, その結果をもとに「スキルの時間」の効果的な運営を図ったり, 日常での指導に生かしたりすれば漢字・計算等の「基礎・基本」の確実な定着が図れるのではないか。
- (3) 家庭における望ましい生活習慣を確立させ, 家庭学習の向上を図るための手立てを家庭と連携しながら推進したり, 自己評価カードや児童用個人カード等の工夫により児童の意欲・意識面の環境を整えたりすれば, 児童の学習に対する意欲が向上し, より効果的に学習内容が身につくようになるのではないか。  
(テーマの変更により, 仮説をより具体的にし, 検証しやすいようにした。)

## 研究内容・方法

- (1) 授業改善について

## ア 指導案形式

教科の特性を生かしながらも学力向上を意識した指導案となるように本校なりの工夫をした。

- (ア) 本校では, 基礎学力向上のポイントを指導案へ明確に位置付けて, 単元を通して意識して指導できるようにした。
- (イ) 本校では, 学力向上のポイントを様々な視点から考えた。その中で共通実践として, 国語では読みを高めるための音読の位置付け, 算数では計算の習熟に重点を置いた指導過程の在り方を工夫し, 授業の中で取り入れていくようにした。
- (ウ) 単元の指導計画と評価計画に関する手立て

「学習状況の評価に関する手引き(平成14年12月 宮崎県教育委員会)P23」を参照し, 観点別評価の視点については, 手引きの「単元と評価規準のマトリックス」を参照し, 整合性を図る。

「努力を要する」状況と診断される児童への手立てについては, 必要に応じて指導観や本時の中でも説明を入れる。

- (イ) 算数科における本校独自の手立ての位置付け

「数と計算」領域に限り, 単元の最後に実施する診断テストの結果を基に「発展的な学習」「補充的な学習」の場を1時間設定した。

- (オ) 国語科・算数科における学力向上を意識した「学習の進め方」の設定

本校では, 学力向上を意識した授業を共通して実践するために, 国語科, 算数科において, 基本的な学習の進め方を設定した。これらを日常の授業の中で実践, 改善を加えている。

イ 毎時間, 国語と算数の授業の初めに「復習タイム」を位置付けることで, 本時までの学習内容の確認・定着及び学力向上に必要な基礎学力を確実に定着させることとした。

エ 本校では, 学力向上のポイント等の研究を受け, 授業の充実を図るために授業における「きめ細かな指導」一覧を作成し, それをもとに日常の授業を実践し, 改善を図っている。

- (2) 基礎学力の定着について

ア 当該学年で学習する内容の指導，及びレディネスの強化を図ることにより，基礎学力を身に付けさせるために「スキルの時間」を毎日設定した。

国語は「言語事項」，算数は「数と計算領域」を中心としながら基礎学力の向上をめざす。

イ 前学年及び学期ごとに学習した漢字や「数と計算」領域のテストを実施することにより，学習内容の定着の度合いを把握し，指導方法や日常の指導の改善に生かしたり，その後の繰り返し指導での漢字力・計算力向上の資料としたりするため，漢字力・計算力テストの年間実施サイクルを作り，定期的実施した。

(3) 指導体制の工夫

ア 教科担任制の実施

(7) ねらい

基礎基本確実な定着	教師の専門性を生かした魅力ある授業が創造できる。 創意工夫した授業作りによる興味関心の喚起できる。 担当教科に専念することで，教科の特性に応じた指導を行いやすく，教材研究の効率化が図られる。 長期的な計画に沿った学習が展開される。
個に応じた指導	複数の教師の目による児童の「よさ」の発見(多面的な児童理解) 「よさ」の発見により，一層個に応じた指導が工夫できる。 高学年児童においては，学担のみの授業と比べ，学習に対するマンネリ化が防げ，新鮮な気持ちで学習に取り組むことができる。
開かれた学校づくり	学級の枠を超えた協力指導体制が確立できる。 学級間交流が一層促進できる。
中学校の指導システムへの適応	中学校の教科担任制に対する段差が解消できる。

(i) 本校での取り組みの方法

実施学年は，中学校との関係の深くなる高学年(5・6年)とし，学年の実態に応じた教員の配当を行う。

特例を除き，国語・道徳・特別活動・総合は学級担任が受け持つ。

朝は，子どもの健康の様子などを学担がつかむため，できるだけ1時間目は学担の授業を計画する。

学担と教科担任との連携を図る方法を研究し，児童の様子や宿題等の調整を実施する。

複数の教師の目で児童の「よさ」を最大限に引き出せるように学年で連携を図る。また，教師になれるのに時間がかかる児童に対しても，学担を含め，複数で対応することで徐々に児童理解を深める。

イ 本校における少人数・習熟度指導の実施

1つの単元に入る前に，「レディネステスト」を実施し，その結果をもとに児童にコースを選択させる。本校の場合，1学級を2分割して，基礎・基本を確実に身に付けさせるコースを「ゆっくりコース」，より発展的な内容に取り組むコースを「すいすいコース」として設定した。

学級通信や学級懇談を通して，保護者に習熟度別指導の趣旨について説明を行った。

単元の途中で「ポストテスト」を実施し，その結果と児童の意思によりコース間の移動を行った。

コース別の学習では，問題の内容，数字の大きさ，量等をコースに合わせた指導を行った。

年間指導計画を見通し，習熟度別指導を取り入れる単元，単なる学級2分割

で少人数指導を行う単元，T1・T2 でチームティーチングを行う単元というように，その単元の内容に応じて指導方法を工夫した。

(4) 基本的な学習習慣・生活習慣の定着について

ア 基本的な生活習慣

(ア) 生活習慣を整えることで基礎学力づくりを側面的に支えるために，「いきいきカード」を作成し，毎月第4週にチェック方式で子ども達に自分の生活を振り返らせるようにしている。内容的には，テレビやゲームの家庭での約束，学習時間などを自己評価できるようにしている。

(イ) 本校では学力向上フロンティアスクールに関する広報紙「フロンティアみなみ」を発行しているが，その中に「学力づくりは生活づくりから」と題し「睡眠に関する指導」「テレビの視聴に関する情報」等を掲載し，生活習慣に関する啓発活動を行っている。

イ 自宅学習に関する手立て

(ア) 年度当初に各家庭へ向けて，「家庭での学習について」というプリントを配布している。それに付け加えて，「中学年向け」「高学年向け」の「家庭学習の仕方」という自宅でどのような学習をすすめればよいのか具体的に書かれたものを配布している。保護者へは，「家庭学習の必要性」を訴え，家庭での学習のポイントを具体的に書き，児童向けの「家庭学習の仕方」は，児童の机の前に貼って常に意識するように指導している。

(イ) 学年に応じた宅習のやり方の指導児童に宅習の内容を任せっぱなしにせず，どのような宅習をすればよいのか内容についても学年の発達段階に応じて指導している。

(ウ) 各学級担任が毎週発行している学級通信等で，質的にまた量的に意欲的に宅習ノートに取り組んでいる児童のノートを縮小して掲載し，努力している児童を賞賛したり，他の児童の参考にしたりしている。また，年2回参観日の際に各学級で「ノート展」を開催し，児童・保護者へ内容を閲覧してもらい，参考になるようにしている。

(エ) 本校では，学力向上に関する広報紙として「フロンティアみなみ」を不定期に発行している。その中に「家庭での音読・暗唱」のすすめや「家庭での過ごし方と学力づくり」の関係，「家庭学習強化週間」等について，参考文献等の中から，保護者へ啓発したいことを重点に掲載し配布している。また，学校と保護者の双方向性を目指し，「学力づくり・生活づくり」に関する保護者からの意見も募集している。

(オ) 自宅学習に関する実態調査について

本校では，7月・11月に保護者の自宅学習への関わり方や保護者から見た児童の実態調査を行っている。これは，昨年度の結果及び今年度の推移を分析・考察し，

児童への指導やその変容の把握，家庭への啓発を行うために実施している。

(5) その他の手立て

ア PTA と連携しての食に関する指導

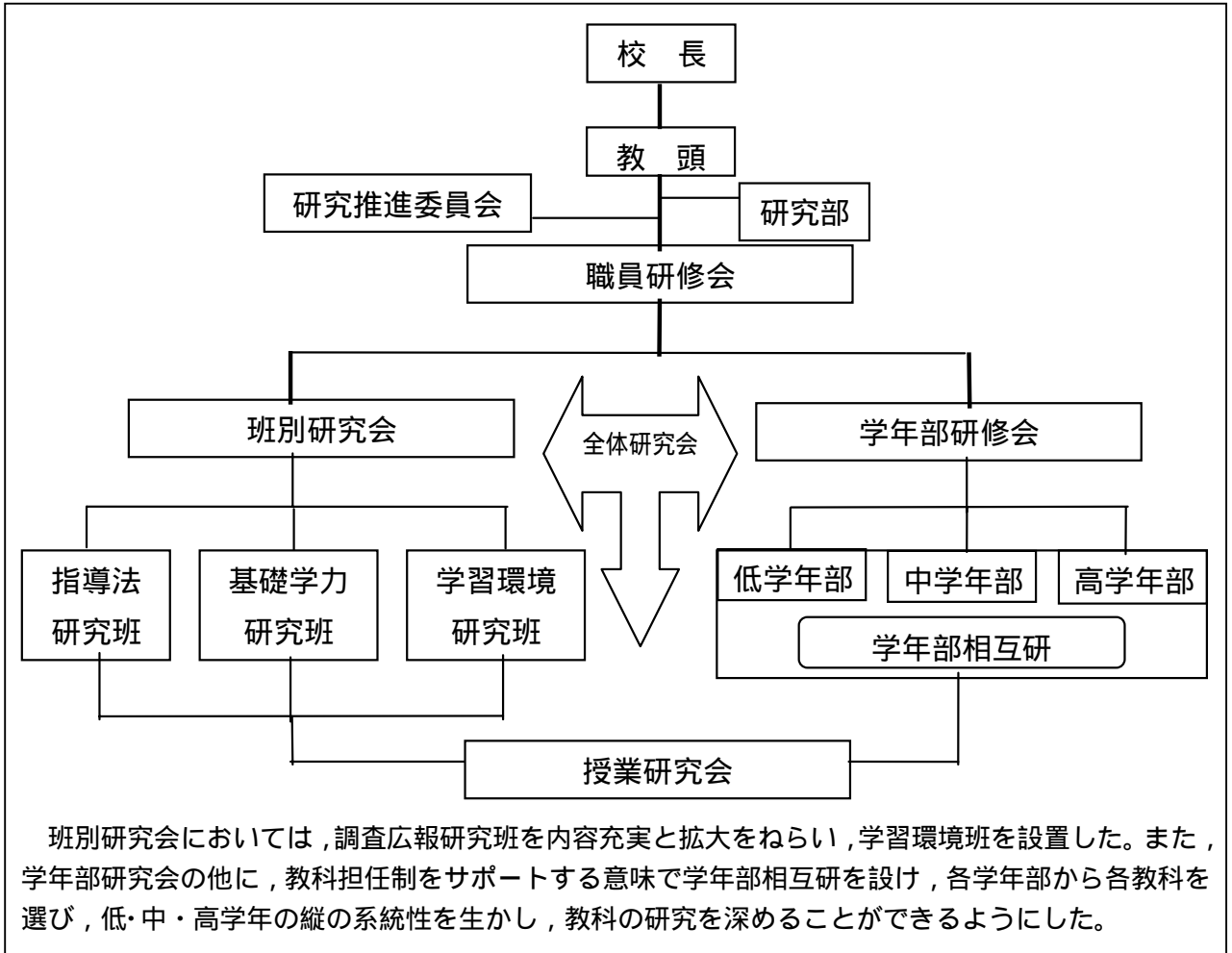
昨年度の「朝食を必ず食べよう運動」をもとにさらに取り組みを広げ全クラスで食に関するノートを回覧し，朝食や食に関する話題を語り合うことで，家庭での意識を向上させた。

イ 個を生かす個人カードの活用

今年度は，特に教科担任制と習熟度別指導の教師の連携を図る意味での診断的なカードを作成し，児童理解や指導に生かした。

平成 16 年 度	<p>テーマ 確かな学力の育成につながる基礎学力の確実な定着を図る指導法の工夫の在り方</p> <p>研究仮説</p> <p>(1) 国語・算数の授業において、個の学習活動を保証した指導過程を構成し、評価を明確にしたきめ細かな指導を繰り返し実践すれば、基礎学力が確実に身に付いた児童が育つであろう。</p> <p>(2) 国語・算数の授業において、ねらいに応じた学習の仕方を繰り返し経験し、自分の考えを明らかにする時間やグループで学び合う時間等を年間を通じて、意図的に取り入れれば、学習に対し主体的に学び合う児童が育つであろう。</p> <p>(3) スキルの時間や諸テストの実施、自宅学習への支援、環境の充実を効果的に実践すれば、児童の学習意欲も高まり、基礎学力も確実に定着するであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>(1) 学力向上を意識した指導過程の明確化</p> <p>ア 国語における学力向上のポイントとしての音読指導の在り方</p> <p>イ 国語科における効果的な個別学習の明確化</p> <p>ウ 算数科におけるねらいに応じた学習の進め方の明確化 習熟を図ることをねらう展開 数学的な思考力を広げることをねらう展開</p> <p>(2) 学習におけるきめ細かな指導の明確化と実践</p> <p>ア 一単位時間におけるきめ細かな指導の一覧表の効果的な活用</p> <p>イ ワークシートの工夫</p> <p>ウ ヒントカード・ヒントコーナーの工夫</p> <p>エ アシスタントティーチャーの活用</p> <p>オ きめ細かな指導における机間指導の在り方の明確化</p> <p>(3) 評価について</p> <p>ア 評価規準・方法の明確化</p> <p>イ 自己評価・相互評価の工夫</p> <p>ウ 授業以外での活動に関する評価の在り方</p> <p>(4) 学習習慣の育成</p> <p>ア 基本的な学習習慣の育成</p> <p>イ 主体的な学びを促す学び方の育成</p> <p>(5) その他の指導</p> <p>ア PTA との連携 食に関する指導に限らず各家庭での取り組み等の紹介などに活動を広げる</p> <p>イ 児童理解のための個人カードの活用</p> <p>ウ 環境設営の工夫</p>
--------------------	---

(3) 研究推進体制



平成 15 年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

(1) 諸テストの結果

各種テストの結果から次のような結果が得られた。

(ア) 漢字力計算力テスト

・ 昨年度のデータ

	11月実施	2月実施
内容	当該学年の主な漢字と計算	11月実施時と同問題
漢字	76.4	90.5
計算	92.8	95.3

・ 今年度のデータ

	年度当初	1学期終了時	2学期初め	2学期終了時	3学期初め
内容	前学年の内容	1学期の学習内容	1学期の学習内容	2学期の学習内容	2学期の学習内容
漢字	73.6	77.3	80.5	80.2	84.7
計算	92.7	86.9	89.9	85.6	85.9

数字そのものを比較すると昨年度が良好に見える。しかし，今年度は問題数を増やし，回数を増やし，解答の範囲を広げたことで昨年度より点数では下がっているが，内容の理解は回を増すごとに確実に向上している。

(イ) 学力検査偏差値(NRT4月実施)

・ 昨年度のデータ

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
国語		47.3	46.3	48.5	48.2	51.2
算数		46.7	48.9	51.4	51.2	51.9

・ 今年度のデータ

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
国語		49.7	47.7	49.5	49.5	51.7
算数		52.8	51.5	52.0	52.5	51.8

データを比較すると、ほとんどの学年で数値の向上が見られた。特に算数では顕著である。

(ウ) 基礎学力調査

・ 昨年度のデータ

	国語	社会	算数	理科
本校3年	76.7		75.4	
同 県平均	76.7		73.6	
本校5年	65.9	68.1	70.8	64.0
同 県平均	66.3	70.3	67.9	65.2

・ 今年度のデータ

	国語	社会	算数	理科
本校3年	72.6		78.9	
同 県平均	69.9		77.3	
本校5年	67.8	73.4	74.1	69.8
同 県平均	68.4	73.1	72.9	69.6

国語に関しては、数値的には満足いくものではないが、県平均と比較すると上昇傾向が見られる。また、算数に関しては3・5年どちらも県平均を上回り、数値的にも向上が見られた。5年生の社会及び理科についても県平均を上回り、良好な結果をおさめた。

2. 今後の課題

児童一人一人の学びを保障する指導過程の工夫の確立を図る。

主体的な学びを促す学び方の明確化とそれに応じた学習訓練の徹底を図る。

全教育活動での「きめ細かな指導」を明確にし、類型化していく必要がある。

- ・ 授業時間におけるきめ細かな指導
- ・ 学習習慣についてのきめ細かな指導
- ・ 自宅学習についてのきめ細かな指導
- ・ 漢字力計算力育成のためのきめ細かな指導

研究内容を焦点化・重点化し、繰り返し取り組むことができるようにする。

授業を側面的に支える研究内容の取組みに対するシステム化を行う。

学力等把握のための学校としての取組

定期的な学力調査の実施

- ・ CRT 検査
- ・ NRT 検査
- ・ 本校独自の漢字力・計算力テストの実施。年6回(年度当初、各学期末、2・3学期初め、年度末)

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

市内妻中学校区の3校で組織しているレベルアップ西都学力向上協議会において、本校の取り組みを紹介し、互いの取り組みについて協議したり、授業研究会をしたりしている。

児湯教育事務所の委嘱研究学校として、研究成果をまとめ、委嘱校発表会で紙上発表という形で本校の取り組みを発表した。

児湯地区学力向上協議会に参加し、レポートを提出したり、協議会で本校の取り組みについて説明したりした。

保護者に対して、広報紙「フロンティアみなみ」を発行し、学力向上に関する学校の取り組みや、生活習慣等の向上に関する資料等を掲載している。これについては今後も継続的に発行していく。

11月にオープンスクールとして全学級2時間の参観授業を日曜日を実施し、保護者をはじめ、祖父母や地域等に広報し、日常の授業を広く公開した。平成16年度についても同様な形でさらに参観者の範囲を広げた参観授業を計画する。

本校はホームページを開設している。しかし、更新や内容の充実についてはさらに努力したい。

平成16年度は、3年間の実績と成果を発表する研究公開を実施する予定である。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】                      15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】                              6学級以下                      7～12学級  
   13～18学級                       19～24学級  
   25学級
- 【指導体制】                              少人数指導                      T・Tによる指導  
   一部教科担任制                      その他
- 【研究教科】                              国語                      社会                      算数                      理科  
   生活                      音楽                      図画工作                      家庭  
   体育                      その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】                      有                      無